



令和7年度 学校だより

つなぐ

翠輝学園 つくば市立
みどりの南小学校
第47号
発行日 R8.1.23

『正確に聴き、確実に行動』

火災発生時の避難訓練



1月19日(月)3校時、第4回目の避難訓練を行いました。今回は「火災」に対する避難で、ハンカチを手にもち、防災頭巾を被って避難しました。約800名の児童が避難するのに要した時間はわずか6分。速やかな移動はもちろん、大変素晴らしい態度でした。校長の講評でも「おしゃべりもなく素晴らしかった。放送での緊急連絡を『正確に聴く』ためには、おしゃべりがあつたら、聴こうと思つても聴けない。」と落ち着いた行動が褒められました。

また、訓練を企画・運営した石井 玲奈 先生(保健主事)からは「この時期に起きた阪神・淡路大震災(31年前、1995年1月17日)では、早朝で火を使つていたので火事が多かった。火事は煙が怖い。出火場所によっては(今回は家庭科室)、避難する階段も変わってくる。もちろんハンカチも必要。」との話がありました。

自分の身を守るため、正確な情報をよく聴き、正しい行動が確実にできる児童を育成してまいります。



大地震が来たら、どうする？

3年生「防災教室」



12月17日(水)午前、3年生で「防災教室」が各学級で行われました。これは総合的な学習の時間の授業「マイ防災バックをつくろう」の授業の一環。講師は国土交通省国土技術政策総合研究所の長屋 和宏 先生(昨年に続き2回目)です。

先生が最初、子供たちに伝えたメッセージは「今日、聞いた話を1つでも良いのでお家の人に話してください」(お子さんから聴きになったでしょうか)。まず、月の地震や「三匹の子ブタ」の話から分かりやすく災害や防災についてお話があり、次に首都直下型地震のような大地震が来たらどうするかを考えました。もしも、家にいたらどうするか。先生からは「①危ないものから離れる、②ダンゴムシのポーズで」の2つ。この2つを意識して行動することで、怪我を防ぎ、体を守れるとのことでした。そして最後は「防災バッグ」。地震が起こると何が起きるか(断水、停電、道路の損壊等)を皆で考えた後、防災バッグの中身(持ち物)では「何のために、いつ、どうやって使うかを考えること」が大切なことを学びました。



- 1 災害とは、防災とは
- 2 大きな地震が来たら
- 3 防災バックのヒント

質問タイムでは、持ち物について「食べ慣れているものがよい」「眼鏡は借りられない」「すぐく暇になる」等の考えるヒントをいただきました。また「Q.水はどれくらい必要か(A.2~3L、持てる分)」「Q.服も入れたほうがいいか(A.季節ごとに確認[冬なのにTシャツだけだと困る])」「Q.停電の時に必要なものは(➡ライト、1回使って点くのを確かめて)」の質問にもお答えいただきました。

後日、総合の時間に、自分にとって必要な「マイ防災バック」の中身を考える学習を行いました。

みなみ 掲示板

【持ち物には名前を！ 持ち主に帰れない「落し物」が増えています】

今年度5回目(スクリレ 12/21)以降、落し物が職員室にたくさん届けられています。名前があるものは、本人のもとに帰っています。また、落し物をして職員室に取りにくる児童もいます。手袋や帽子、体操服などお預かりしております。心当たりがある児童は取りにきてください。以前お知らせしましたが、3か月過ぎたものは順次処分する予定です。よろしくお願いいたします。

